

兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会 [第1回総会] 議 事 要 旨

I 日 時：平成29年7月28日（火）10：00～12：00

II 場 所：ラッセホール2階 ルージュローズ

III 出席者

別紙1のとおり

IV 議 事

- 1 兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会規約の改定
- 2 平成28年度 プロジェクト事業実施結果
- 3 平成29年度 プロジェクト事業実施スケジュール
- 4 後継プロジェクトへの対応

V 主な内容

- 1 開会
- 2 兵庫県産業労働部長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 事務局資料説明
事務局から議事1、2、3、4について資料をもとに説明
 - (2) 意見交換
別紙2のとおり
- 4 閉会

出席者 40 名（構成員 29 名、オブザーバー、県・推進協議会事務局 10 名）

構成員（29名）

林 直樹	兵庫県経営者協会総括参与
宮本 要	公益社団法人兵庫工業会専務理事
中林 志郎	兵庫県商工会議所連合会専務理事
足立 誠	兵庫県商工会連合会専務理事
内田 雅康	兵庫県中小企業団体中央会事務局長
瀬川 里志	兵庫県立工業技術センター次長（総括担当）兼総務部長
緒方 隆昌	公益財団法人新産業創造研究機構専務理事
藤原 政幸	公益財団法人先端医療振興財団常務理事
山田 猛	一般財団法人近畿高エネルギー加工技術研究所専務理事
安井 宏	公益財団法人計算科学振興財団専務理事
角 正憲	公益財団法人ひょうご産業活性化センター常務理事兼企画経営室長
柳本 昭成	一般社団法人神戸市機械金属工業会事務局長
後藤 彰大	公益財団法人神戸国際医療交流財団事務局長
小林 滋	特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構理事
清家 慶只	一般財団法人兵庫県雇用開発協会専務理事兼事務局長
山崎 徹	兵庫県立大学副学長兼産学連携・研究推進機構長
小高 裕之	神戸大学学術・産業イノベーション創造本部産学連携・知財部門長
杉本 直己	甲南大学先端生命工学研究所長
小松 美咲	株式会社三井住友銀行公共・金融法人部（神戸）部長代理補
銅金 与父	株式会社三菱東京UFJ銀行大阪公務部長
野村 和輝	株式会社みずほ銀行神戸支店神戸第一部渉外三課課長代理
菊池 浩	株式会社みなと銀行上席代理
澤野 年哉	但陽信用金庫事業支援部担当部長
三宅 智章	姫路信用金庫常勤理事
岡村 義忠	兵庫県信用組合理事融資部長
竹中 郁子	兵庫労働局職業安定部長
小西 啓輔	神戸市企画調整局医療・新産業本部医療産業都市部調査課長
片山 安孝	兵庫県産業労働部長
安部 斉	兵庫県産業労働部政策労働局長

オブザーバー（1名）

魚井 佳代子	近畿経済産業局地域経済部地域経済課長補佐
--------	----------------------

県・推進協議会事務局（10名）

竹村 英樹	産業労働部産業振興局長
計倉 浩寿	産業労働部政策労働局産業政策課長
有吉 智香	” 産業政策課企画調整参事
小山 達也	” 産業政策課政策班長
城 友美子	” しごと支援課長
湖上 茂也	” 産業振興局工業振興課長
宮口 美範	” 新産業課長
谷口 幸史	” 産業立地室長
波々伯部 仁	企画県民部科学情報局科学振興課科学政策班主幹
安達 正志	推進協議会事務局主任プロジェクト推進員

議事要旨（意見交換）

○事務局

ただいまから、次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会、平成29年度の第1回総会を開催します。本会議については、昨年度と同様、本県の取り扱いに準じ、公開とします。それでは、開会にあたりまして、推進協議会会長の兵庫県産業労働部長から、ご挨拶を申し上げます。

産業労働部長あいさつ

新規・交代の構成員の紹介

○事務局

それでは、議事に入りたいと思います。議事の1つ目は、兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会規約の改定についてです。資料1に基づき、産業政策課長から説明します。

産業政策課長の説明

○事務局

ただいまの説明について、ご質問・ご意見等はございませんでしょうか。ご質問等がなければ、協議会規約の改定について、ご承認をいただいたこととさせていただきます。

続きまして、議事2の平成28年度プロジェクト事業実施結果及び議事3の平成29年度プロジェクト事業実施スケジュールをまとめて説明します。資料2の実施結果を中心に各事業所管課室から説明しますが、事業実施主体の皆様から補足や、事業取組に対するご意見等ありましたら、全事業説明後に時間を設けていますので、よろしくをお願いします。

各事業所管課室長の説明

○事務局

以上で全事業について、資料2の実施状況を中心に説明しました。続いて、議事4の後継プロジェクトの検討について説明します。資料4に基づき産業政策課政策班長から説明します。

産業政策課政策班長の説明

○事務局

それでは、残りの時間で各事業実施主体の皆様からの補足説明ですとか、事業構想の推進、各事業の取組に対するご意見等をお願いします。

○A委員

現在、企業の方々のシミュレーションの高度化を支援するような取組をさせていただいて非常にありがたいと思っておりますが、新たな事業の中にAI・IoT分野を追加していただいたというのは、これは非常にタイムリーなこと

かなと思っています。私どものスーパーコンピュータを持っていたりして、I C P 関係の仕事をしているので、話題提供という形なんですけれども、今、日経新聞とかですね、NHKとかいろいろところで人工知能が出てこない日はないぐらい、いろいろいっぱい出てきていると思います。雇用を考えると、2つあって、1つは今ある仕事がなくなるとか、新たな仕事がなくなりますとかいうセンセーショナルなマイナスのインパクトがあるんですけど、私どものまわりに聞こえてくるのは、むしろA I 関係で仕事が増える方ですね、特にA I の知識を持っている技術者というのは引く手あまたで、超高給を出さないと人が取れないような状況になっています。我々のところでも、自主事業ではありませんが、A I 関係の講習会を今年から始めたんですけれども、非常に好評です。A I 関係の講習会は、大体東京で行われることが多くて、大体1日20万ぐらい取られるようなやつが、結構盛況なものですから、うちでも6万円ぐらいでやっているのですが、それでも企業の方は来られます。ただなかなかそれを中小企業まで広げるといのはとても大変なので、来年度の後継プロジェクトでも、我々の方も提案させていただきますが、県などの支援で、中小企業までその知識を広げられるようなことができればいいなと思っています。我々としても一生懸命やっていきたいと思いますが、この分野はとにかくスピードが速いので、早い段階で取り組めればいいなと思っていますので、よろしく願いしたいと思っています。

○県産業労働部長

県の方でもA I ・ I o T にどう取り組むかということですが、中小企業を回ると、「対応しないといけないと思うが、どうしていいかわからない。自分の会社には営業もおらずわからない」と社長さんが言われます。それを支援するため、例えば相談に乗るようなことから始めないといけない。また、企業仕様の仕組みを中小企業に合う形でマッチングしないといけない。その一つ手前で、A 委員が言われた研修なども必要。今までは水素・ロボット・航空機・医療の4分野が中心でしたが、今度それにA I ・ I o T を入れて進める必要があります。また、A I ・ I o T が本当に雇用を奪うのかどうか、A I ・ I o T で人手不足に上手く対応して、あまった人材を新分野へ流動的に配置するということが求められています。後継プロジェクトでも対応していきたいと思っていますので、関係機関や実施機関では知恵をお出しいただきますようお願いいたします。県でもなかなかこの動きについていけない。動きが速いということは、県でもみな認識しておりますので、なんとか対応していきたいと思っています。

○B 委員

現在、当方の匠の技プロジェクトでは、ものづくりの基本的な作業をデジタル化する作業をしています。I o T の時代が来ると、何を作るか、どういう技術を向上させるか、どういう物を作るかということについて、まず最初に我々が、どういう未来社会を作るのかという構想をつくらないと、何をつくって良いのかかわからないというジレンマに陥ります。現在のI o T 時代のものづくり

は、まず兵庫県がどういう未来の兵庫県を作るのかという構想を明示して、その上で、新たなプロジェクトを作る、募集するということが必要になると思います。航空機、次世代エネルギー・水素など非常に重要なテーマで、そういう技術が必要な未来社会をまず我々が構想し、それに対して、I o T時代に則したものづくりを構築することが必要だと実感しています。

○県産業労働部長

県では、県政の方向として、2030年の兵庫はどうなっているか、それをどう目指していくかという検討をしています。少し抽象的な面もありますが、自動車は自動運転になるのではないか、オリンピックまでに自動翻訳機が実用化したら語学教育が根本的に変わるなど。変化の動きが速過ぎて、県の2030年がどんな形で出てくるか分かりませんが、そうした認識で県も取り組んでいます。

○C委員

今度の後継プロジェクトは、産業活性化メニューが全産業対象というので興味があるのですが、全産業となると特に人工知能やロボットはもちろん、今後、観光や6次産業等の農業とも絡むと面白い取組ができると考えます。そのことについて、県としていかがですか。

○県産業労働部長

ご指摘のとおりで、人口流出が最大の県政課題で、雇用が前面に出ています。今、地域創生に取り組んでいますが、まず、農業と観光など地域にある資源を使わないといけません。農業も6次産業等いろいろありますので、今までのものづくり限定ではなくて、もう少し幅広くいきたいと思います。また、各大学等とも連携してやっていきます。県内全37大学と雇用に関する協定を結んでおり、大学とも調整していきたいと考えています。

○D委員

先ほど、2030年の話がありましたので、2つ話題をご提供します。1つ目、私の専門分野の生命工学では、欧米・日本で先進的なことをやっているのが最近まで思っていました。最近では国際会議がアジアで多数開催されます。特に中国では、毎月どころか、毎週というペースでやっています。また、そこに出席して驚くのは、日本では思ってもいないような国の最新のデータ等が発見できることです。日本ではあまり知られていませんが、東ヨーロッパ、特にポーランド、チェコ、スロベニアあたりでは、今、国と民間とが共同して多様なプロジェクトが進められ、海外に雇用を広げようとしています。だから海外の企業はウエルカムであり、今言った3国は親日なので、少し距離はありますが、2030年を見据えてそういう地域をターゲットに入れておいた方が良くと思います。ただ、東欧は別として、中国やアジアは良いことばかりではなく弱点があります。1つは、すでに下降を始めていること。2030年には、上昇よ

りも日本と同じように下降しているかもしれません。もう1つ、中国での国際会議には世界中の情報が集まる点では良いのですが、長期を見据えていません。せいぜい5か年計画程度で、目の前にある喫緊の課題をいかにうまく解決するかということばかりです。

2つ目、この兵庫の地の良いところは、スパコンやバイオ・医療があり、それに使うような基礎基盤技術や金型産業が集積していることです。ただし、それは本当に現在うまく集積しているだけで、組み合わせができていません。日本でこの秋、生命工学分野では世界初の遺伝子を化学のレベルで解析しようとする日本核酸化学会が立ち上がります。例えば、喫緊の課題で言うと、がん遺伝子を持っているかという遺伝子解析は、その人の遺伝子を解析できたらもう解析する必要はないため、産業として、1人の医療としては1回きりです。一方、がん遺伝子が発現するかどうかは人によって違うので、発現確率が何パーセントだとか、どんな状況なら発現するのかを解析するビジネスは手つかずですが、それを解析したら産業的には毎日ビジネスになります。2030年を見据えるならば、こうしたビジネスを医療先進地である兵庫が握った方がいいと思います。そういうことをネットワーク研究会等を作るなどして、兵庫県が先進してそういう企業を呼び、なおかつ伝統的な産業をうまく組み合わせると、将来的な雇用に結び付くと思います。

○E委員

兵庫県の地域創生には、まさに雇用創出が重要だと認識しています。雇用創出を考えた時に、まずは産業を活性化する必要がありますし、若者に魅力がある地域であること、人を育てること、この3つが重要だと思います。また、2030年の世界という話がありましたが、まさにこの次世代産業雇用創造プロジェクトは2030年まで見据えたプロジェクトだと実感しています。当機構でも、1つは水素を中心とします環境エネルギーについて、温暖化問題が世界で叫ばれていますので重要な課題だと思います。航空機産業については、20年後に500兆円の市場になるということで、20年先ということと2030年をすでに見据えています。医療についても、関西広域連合の関西健康・医療創生会議を中心に発展しようとしています。ロボットについても、ロボット・AI・IoTということで、かなり世界的な展開となっていますので、それを見据えたプロジェクトだとこの3年目を迎えて実感しています。それでその後継プロジェクトの提案がありましたが、これらをぜひ進めていただきたいという強いお願いをいたします。まさに2030年を見据え、産業界が栄える、若者に魅力ある、人を育てる、こうしたことを達成するため一番適したプロジェクトになると思います。

○F委員

後継プロジェクトの策定方針について、第4次産業革命という話がありましたので確認ですが、AI・IoTの分野というような、通常第4次産業革命というと、普通ビックデータであったり、ロボット、あるいはロボティック・プ

ロセス・オートメーション（RPA）のジャンルまで範囲を広げて良いかの確認です。経済産業省もそういうセットで進めていると思います。また、新しいイノベーションの産業が起こることによって、特に中小企業の雇用という観点から言えば、川上・川下企業を含めた全体の雇用が影響すると思います。

○事務局

ありがとうございます。F委員からご意見があった分野については、全て含まれたいと考えています。現在の製造業におけるAI・IoT化や高度化、あるいはビックデータを使う等の新たな産業の創出、この2つの柱でAI・IoTを進めていきたいと考えています。

○G委員

当方では、次世代関連産業に関連する川下企業と中小企業のマッチングをする、非常に地味な取組をしています。27年度には川下企業10社程度に対して60社程度の中小企業をマッチングさせています。28年度にも同程度マッチングを行っています。今日の説明でもありましたが、雇用についても2名の目標のところ5名の実績があり、今後もこうした雇用を進めたいと思います。もう一つの側面、中小企業と次世代産業関連企業とのマッチング件数はこの2年間で7社です。多いか少ないかということはありませんが、中小企業が次世代関連産業分野において取引ができたということで、非常に意義があったと思っています。後継事業でも、引き続きマッチングを進めていきたいと思っています。

○県産業労働部長

今日の会議で、1つ補足です。今日は各中小企業の関係の団体の方、金融機関の方が出席していますが、実はこの事業の中で各企業にとって一番魅力的な事業は「事業拡大雇い入れ人材育成支援事業」です。これは次世代産業分野で雇用を拡大した企業に1人100万円を上限に人件費を補助するものであり、要件についてはホームページや県しごと支援課にお問い合わせいただいたと思いますが、多数の支援実績がありますので、是非とも各企業にご推薦いただきたいということを最後に補足いたします。

○事務局

貴重なご意見等いただきまして、ありがとうございました。本日のご意見等を踏まえまして、みなさまと連携を密にして、プロジェクトの推進に取り組んでまいります。

これで、本日の議事は全て終了いたしました。それでは、これもちまして、第1回総会を終了させていただきます。皆様、どうもありがとうございました。